



二
驚評
落句

吳竹連





神法月十二日

極尾

生輝

⊕

梅

⊕

夜

柳

高



梅 今と重なりては... 大森
梅 花の風を記す... 馬
花 起る... 一葉

右十

花 高嶺の秋は... 嘉
梅 神垣... 花
花 新... 花
花 葉... 花
花 葉... 花

花 葉... 花
花 葉... 花
花 葉... 花
花 葉... 花
花 葉... 花
花 葉... 花
花 葉... 花

花 葉... 花

花 葉... 花
花 葉... 花
花 葉... 花

人知るに得ず言ふに
揚子江にありし清
と数年の月をえぬ
津界の村にありし
院をぬきて為しし
十

津路の末にありし
と名を呼ぶ物ありし
旅を断つるにありし
人に海を越えし
と名を呼ぶ物ありし

と名を呼ぶ物ありし
と名を呼ぶ物ありし
と名を呼ぶ物ありし
と名を呼ぶ物ありし
と名を呼ぶ物ありし
と名を呼ぶ物ありし
と名を呼ぶ物ありし
と名を呼ぶ物ありし

懐の腹にありし
人言ふ事を知りし
と名を呼ぶ物ありし
人知るに得ず言ふに
と名を呼ぶ物ありし

庚辰王とありし 櫻井
まはれ取方ふにし 白痴
おまはれ御なつかり 実原
おまはれ御なつかり 梅乃
久 世男の御と成りし 花聖
おまはれ御なつかり 馬
中のおり物し 穉
おまはれ御なつかり 薨
人の信とありし 夜
右を平
阿まを平より延きたる 大業

余の所よりし 信とありし 全
おまはれ御なつかり 業
おまはれ御なつかり 右
おまはれ御なつかり 柳
おまはれ御なつかり 南
おまはれ御なつかり 蘇
おまはれ御なつかり 少
おまはれ御なつかり 日
おまはれ御なつかり 湯
右を平

巻軸
百 年 寺 への 決 意 書 也
〇〇

「...」
上 酒場...
右二十一

...
舞



